

あけのほし 2012年4月1日

「死者の中からの復活」

菊田 行住

死者の中から復活するときには、めとることも嫁ぐこともなく、天使のようになるのだ。死者が復活することについては、モーセの書の『柴』の個所で、神がモーセにどう言われたか、読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。あなたたちは大変な思い違いをしている。

(マルコによる福音書 12章 25～27節)

キリスト教が大事にしてきた最も中心的な事柄として、「死者からの復活」ということがあります。このことは、実は、イエスさまはその生前の時から、弟子たちや当時の人々に語られていました。イエスさまはその宣教の中で、神の国の良い知らせを伝えていましたが、その神の国、つまり、神さまの御支配が、今この時に、すべての世界を覆い尽くしているのだと、人々に宣べ伝えたのでした。そして、その神さまの御支配は、生と死の境界線を越えて、死が支配している世界までも及んでいるのだと語られました。つまり、この死の力を制圧し、すべての領域を神さまが御自分の支配下においたのだということが、「死者からの復活」として表現されているのです。人が死んだ後どうなるのか？陰府と呼ばれる、あるいは地獄のような恐ろしいところに行くことになるのか？その様な恐れの中にある人々に向かって、イエスさまは、神さまの御働きが、死の支配を覆い尽くしているので、死者を再び起こして（復活させて）、新しい神さまと共にある命をお与えになるのだと人々に伝えることで、その恐れから解放したのでした。

また、その神さまと共にある新しい生のあり方は、今のような男とか女とか判断できるようなからだなのではなく、天使のようになるのだとここでは言われています。天使というのは、実際は目などの感覚器官では認識できるものではありません。その新しいからだは、霊のからだなのだとパウロは言っています（Iコリント 15章 44節）。つまり、人間には知覚することは出来ませんが、しかし霊のからだとしてちゃんと神さまの御手の中で存在しているのだということです。

イエスさまは、このような御自分が生前に語られていた死者の中からの復活に、全幅の信頼を置いていました。ですから、死という最も人間が恐れる苦しみに対して、逃げることなく、また忘却することなく、苦しみのただ中に進んで行くことが出来たのです。そして、その御自身のお言葉通り、神さまによって死者の中から復活されました。信仰者は、このイエスさまが言葉とその御自身の振る舞い、そして身をもって示された「死者からの復活」への希望に生きて行く道が与えられています。イエスさまは言われます。「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。」と。この言葉に信頼し、死を克服された神さまに、お任せの思いを置いて行きたいと願います。